

日本サンゴ礁学会 第15回大会 大会案内・プログラム

The Japanese Coral Reef Society, 15th Annual
Conference
Schedule and Program

開催期間:2012年11月22日(木)~25日(日)
会場:東京大学本郷キャンパス

発行:日本サンゴ礁学会第15回大会実行委員会

大会スケジュール

11月21日(水) 各種委員会

委員会のスケジュールは後日個別にアナウンスします。

11月22日(木) 評議員会、大会受付、口頭発表

10:00-12:00	評議員会	理学部1号館小柴ホール
10:30--	受付開始	理学部1号館小柴ホール前
13:00-18:15	口頭発表	工学部2号館213講堂
16:00--	ポスター掲示開始	理学部1号館小柴ホール前、講義室
18:30-20:30	自由集会①、②	理学部1号館839室、710室

11月23日(金) 口頭・ポスター発表

9:30-12:15	口頭発表	工学部2号館213講堂
12:15-13:30	昼休み	
13:30-16:00	口頭発表	工学部2号館213講堂
16:15-18:15	ポスター発表(コアタイム:奇数番号)	理学部1号館小柴ホール前、講義室
16:30-17:00	スピードトーク	理学部1号館小柴ホール
18:30-20:30	自由集会③、④、⑤	理学部1号館839室、710室

11月24日(土) 口頭・ポスター発表、総会、懇親会

9:30-12:15	口頭発表	工学部2号館213講堂
12:15-13:30	昼休み	
13:30-15:30	ポスター発表(コアタイム:偶数番号, 保全活動)	理学部1号館小柴ホール前、講義室
13:45-14:15	スピードトーク	理学部1号館小柴ホール
15:45-18:15	総会、学会賞受賞講演	理学部1号館小柴ホール
18:30--	懇親会	山上会館

11月25日(日) シンポジウム、レクチャー

10:00-12:30	シンポジウム(学会内) 「サンゴ礁学の成果と展望」	工学部2号館213講堂
14:00-16:30	公開シンポジウム 「変化する環境と生態系」	工学部2号館213講堂
17:00-19:00	レクチャー 「サンゴ群集のモニタリング法」	理学部1号館3F講義室

案内

- 大会受付は、理学部1号館小柴ホール前です。口頭発表の会場(工学部2号館213講堂)とは別の建物です(徒歩4分)。最初に必ずここで受付を済ませた後、大会に参加して下さい。

総合受付 小柴ホール前ロビー

連絡事項などは、口頭アナウンスの他に総合受付のボードにも貼り出します。落とし物等は受付へご連絡ください。

- 口頭発表会場(工学部213講堂)および小柴ホールでは無線LANが使えますが、学内ネットワークを使用するため、利用希望者は各自ウイルスソフト等のセキュリティ対策を必ずお願いします。
- 23・24日10:30-18時まで理学部1号館710講義室を休憩室として解放します。
- 工学部2号館213講堂・理学部1号館休憩室(710講義室)では飲食可能です。理学部1号館小柴ホール内での飲食は禁止です。
- 23・24日のポスターセッションの時間帯に、小柴ホールロビーおよび336会場でコーヒーサービスを予定しています。大会に参加される全ての方(保全活動・展示企業の方を含む)がご利用できます。スピードトーク会場の小柴ホール内への持ち込みはご遠慮ください。
- 空ペットボトルなど原則としてできる限りお持ち帰りください。工学部2号館231講堂にはゴミを残さないよう、ご協力ください。理学部1号館(小柴ホールロビー・336・710)には、大会専用のゴミ箱を設置します。分別にご協力ください。

研究発表等

口頭発表

- 口頭発表の会場は、工学部2号館213講堂です。
- 口頭発表の講演時間は、質疑応答を含めて1人15分(発表12分)です。
- 発表機材は、液晶プロジェクターを用意します。パソコンは、Windows 7 (PowerPoint, Adobe Acrobat) と MacOS X (PowerPoint, Adobe Acrobat) を用意します。発表前の休み時間までに、発表ファイルを会場のPCに登録してください。各自のパソコンを接続することも可ですが、発表前に必ず動作を確認しておいて下さい。

ポスター発表

- ポスター発表の会場は、理学部1号館小柴ホール前ホワイエ、会議室、3F講義室です。
- ポスターは、11月22日(木)16時から11月24日(土)15:30まで掲示できます。11月24日(土)総会(15:45-)までに撤去して下さい。
- ポスター番号が奇数の発表は11月23日(金)16:15-18:15、偶数の発表は11月24日(土)13:30-15:30とします。
- パネルの大きさは、約172cm(縦)×112cm(横)です。この範囲に収まるようにポスターを作成して下さい。
- ポスター発表の中から、若手優秀賞を選出します。対象となるポスターには番号に*がついています。

スピードトーク

- ・ポスターの紹介をするスピードトークのセッションを設けました (希望された方のみ, ポスター番号 PS および NS が対象です). 会場は, 理学部1号館小柴ホールです.
- ・ポスター番号が奇数のスピードトークは 11 月 23 日 (金) 16:30-17:00, ポスター番号が偶数および保全活動ポスターのスピードトークは 11 月 24 日 (土) 13:45-14:15 です.
- ・発表機材は, 液晶プロジェクターを用意します. パソコンは, Windows 7 (PowerPoint, Adobe Acrobat) と MacOS X (PowerPoint, Adobe Acrobat) を用意します. 発表前の休み時間までに, 発表ファイルを会場の PC に登録してください. 各自のパソコンを接続することも可ですが, 発表前に必ず動作を確認しておいて下さい.
- ・スピードトークはあくまでポスターに聴衆を誘うためのもので, スライド 2 枚以内, 2 分以内です. 詳細な結果や議論はポスターでお願いします.

総会・受賞講演

日時:2012年11月24日 (土) 15:45-18:15

場所:理学部1号館小柴ホール

日本サンゴ礁学会の会員は, ご出席下さい.

出席できない場合, あらかじめ学会事務局まで委任状を送付して下さい.

懇親会

日時:2012年11月24日 (土) 18:30-

場所:東京大学山上会館 (小柴ホールから徒歩 3 分)

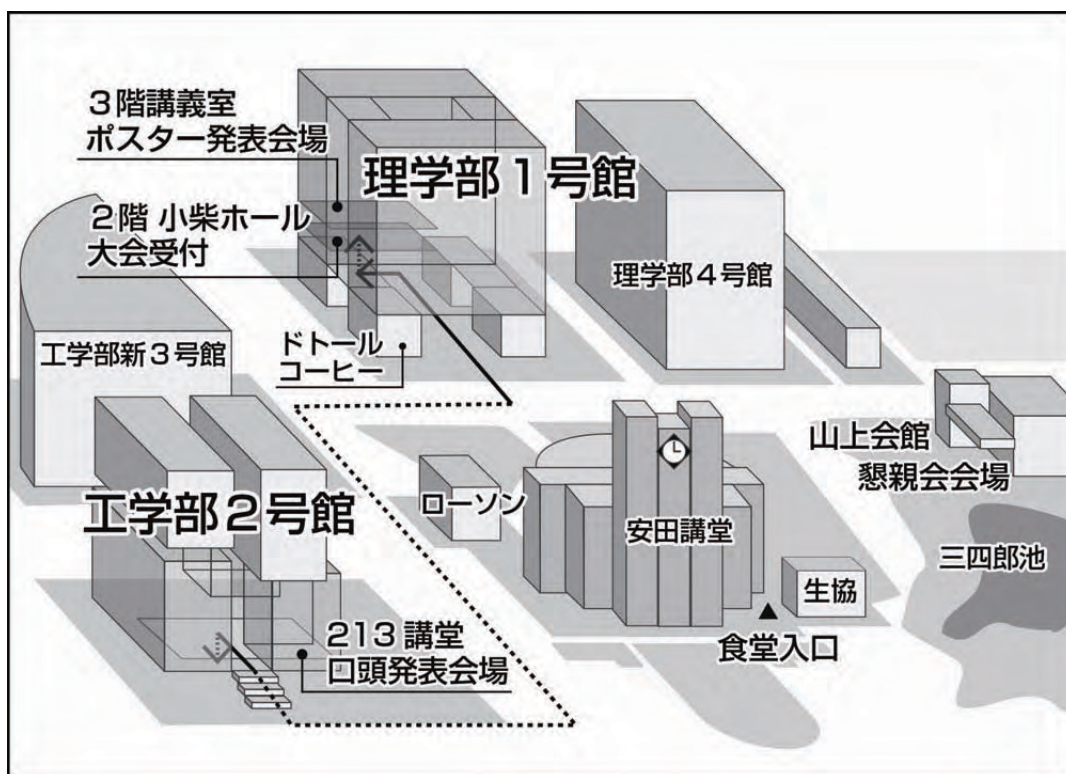
サンゴ標本展示

東京大学総合研究博物館 2 階展示室において, 同館地理資料部門が保有するサンゴ標本の展示を開催します. 沖ノ鳥島のサンゴを中心に, 貴重なサンゴボーリングコアなどをご覧いただけます. また博物館1階では, 「東大古生物学 130 年の軌跡」展を開催中です.

開館時間: 10-17 時 (入館は 16 時半まで)

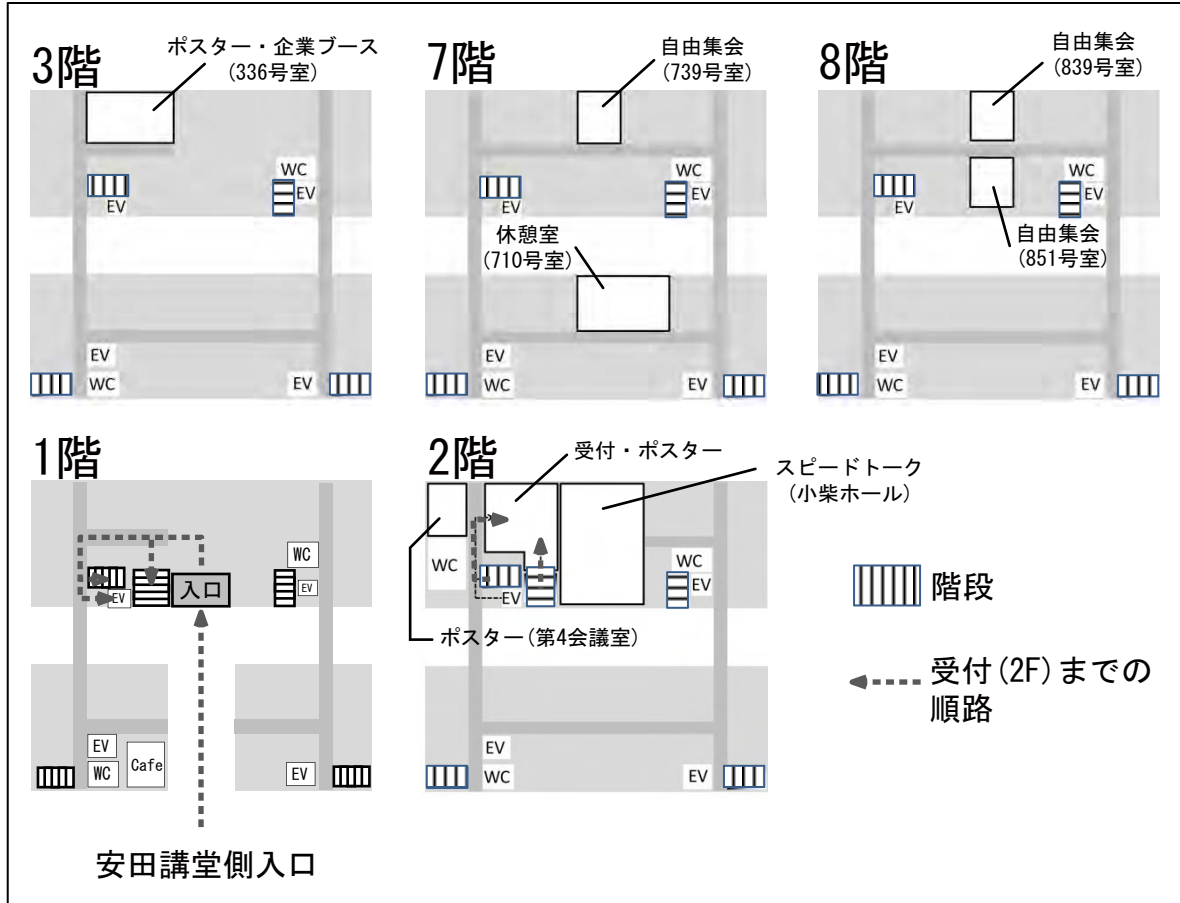
入館料: 無料

会場地図

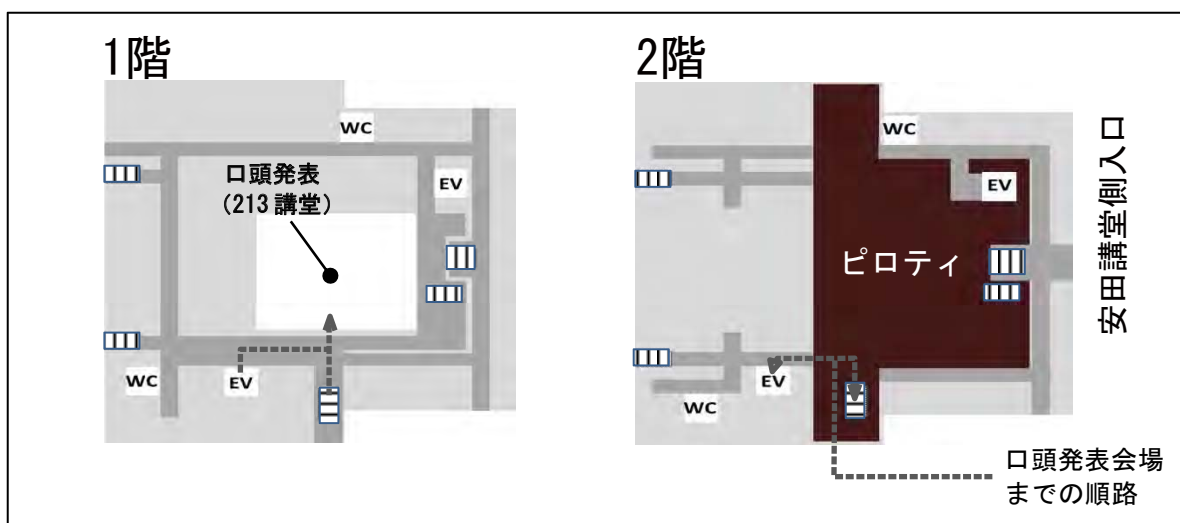


主要会場案内

理学部 1 号館



工学部 2 号館

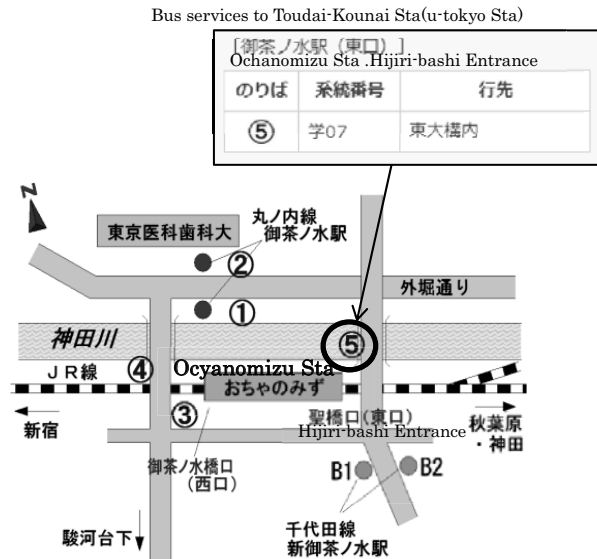


バス乗り場・時刻表

上野駅 Ueno Sta



御茶ノ水駅 Ochanomizu Sta



学01 (上野駅前→東大構内行)上野駅正面玄関口4番のりば

	平日	土曜	休日
8	12 27 42 58	23 38 56	
9	13 27 42 55	16 36 59	13 44
10	11 27 45	23 49	15 45
11	04 27 49	13 55	15 43
12	09 32 53	34	07 32 56
13	15 32 49	05 33 58	18 41
14	06 24 40 55	23 51	10 43
15	13 31 49	18 47	19 48
16	07 25 45	12	10 32 54
17	07 29 49	02 37	17 41
18	09 28 47	21	16 45

学07 (御茶ノ水駅前→東大構内行)御茶ノ水駅 聖橋上のりば

	平日	土曜	休日
8	03 09 15 21 27 33 39 45 52 58	12 38	00 21 43
9	04 10 16 22 28 35 42 49 56	03 30 58	07 32 57
10	03 10 18 26 34 44 54	24 56	10 22 45
11	04 14 25 37 49	27 44	14 29 44 58
12	01 13 25 37 49	00 15 31 46	12 25 40 55
13	01 13 25 37 49	02 17 33 48	10 25 40 56
14	01 13 25 37 49	04 19 35 50	08 21 35 48
15	01 13 25 37 49	06 21 37 53	05 21 34 47 59
16	01 13 24 36 48	09 25 41 57	12 28 46
17	00 16 32 45 58	25 52	09 33 49
18	11 24 36 49	12 38	16 49

学01 (東大構内→上野駅前行)東大構内ロータリーバスのりば

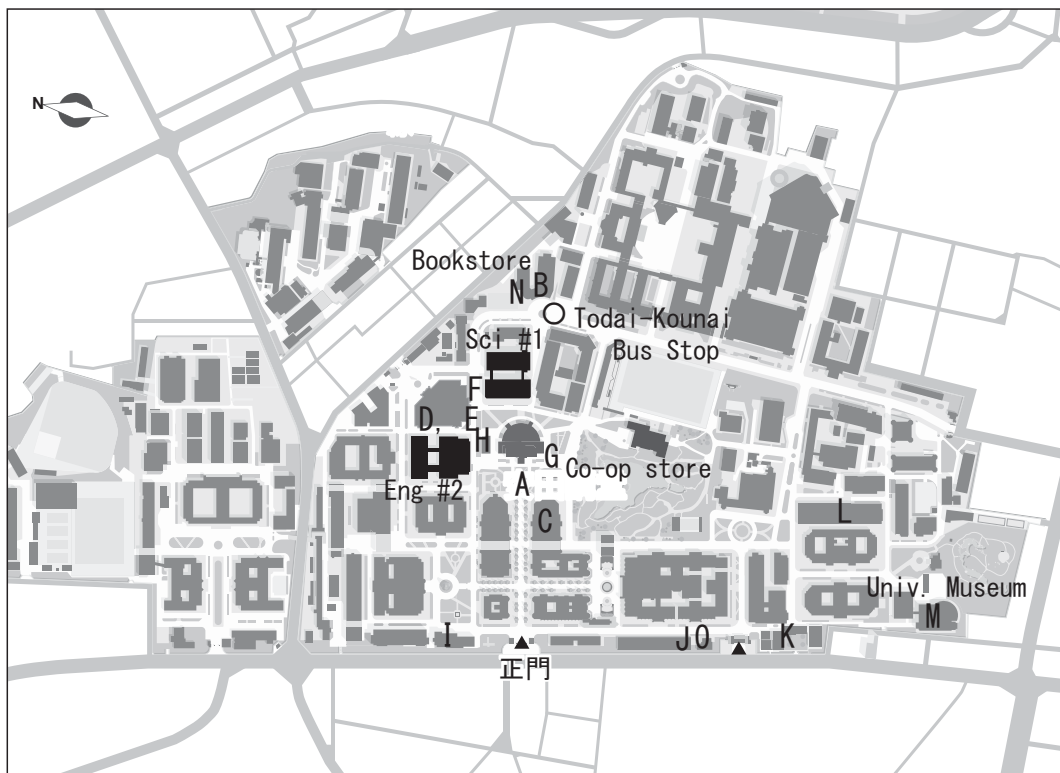
	平日	土曜	休日
12	13 35 58	15 45	15 38
13	15 30 47	10 35	00 23 51
14	02 18 35 53	00 27 55	24
15	11 29 47	21 45	00 29 51
16	05 25 47	35	13 36
17	10 30 50	15	00 24
18	10 30 50	00 45	00 30
19	10 30	30	

学07(東大構内→御茶ノ水駅前行)東大構内ロータリーバスのりば

	平日	土曜	休日
12	08 20 32 44 56	01 17 32 48	00 13 28 43 58
13	08 20 32 44 56	03 19 34 50	13 28 44 56
14	08 20 32 44 56	05 21 36 52	09 23 36 53
15	08 20 32 44 56	07 23 39 56	09 22 35 47
16	08 20 32 44 56	12 28 44	00 16 34 57
17	08 20 33 46 59	12 40	22 38
18	12 25 38 51	00 27 53	05 38
19	04 18 31 45	19 45	00 20 45

上野駅・御茶ノ水駅と東大構内を結ぶ学バス(所要 10-15分・片道 170)です。
 東大構内ロータリー(始/終点)は理学部1号館裏で、会場に近く便利です。
 途中 龍岡門・東大病院前停留所を経由しますが、終点東大構内で降車ください。

食事処 Restaurant/Shop Map



	Map	22 (Thu)	23 (Fri)	24 (Sat)	25 (Sun)
Around Sci.Build #1					
生協中央食堂 Co-op Cafeteria	A	11 - 21	11 - 14	11 - 14	11 - 14
生協第2食堂 Co-op Cafeteria 2	B	8 - 14 : 30			
銀杏・メトロ食堂	C	11 - 20		Close	
工学部2号館 SUBWAY	D	10 - 20 : 30			
工学部2号館 日比谷松本楼	E	11 - 21			
理学部1号館ドトール Doutor Coffee	F	8 : 30 - 19	11 - 17	10 - 18	11 - 17
生協第二購買部 Co-op Store	G	8 - 21	10 - 17	10 - 17	10 - 17
安田講堂裏ローソン Lawson	H	24 h	24 h	24 h	24 h
Around Sei-mon, Aka-mon					
工学部11号館 Starbucks Coffee	I	8 - 20	9 - 20	9 - 20	9 - 20
赤門横 福武ホール UT Café	J	10 - 20		10 - 20	
伊藤国際センター 椿山荘カフェ	K	11 - 22		11 - 22	
医学部研究棟13階 カポ ペリカーノ	L	11-15/18-22			
その他 施設					
総合研究博物館 (入館16時半迄)	M	10 - 17	10 - 17	10 - 17	10 - 17
生協書籍 Co-op Bookstore	N	10 - 19		10 - 17	
赤門横 東大UTCC (東大開発商品)	O	10 - 18		10 - 18	

発表プログラム

》口頭発表 Oral Presentation

大会受付 11月22日(木) 10:30から 理学部1号館小柴ホール前 Registration at Koshiba Hall, Science Bldg #1

口頭発表 11月22日(木) 13:00-18:15 Oral Presentation 22 November (Thu)

工学部2号館213講堂 Room#213 Engineering Bldg #2

講演番号 No.	時間 Hour	発表題目 Title	発表者(所属) Authors (Affiliation)
座長 (Chair): 新里宙也			
1H-01	13:00	沖ノ鳥島におけるサンゴ群集の長期モニタリング結果	○川崎貴之・山本秀一(㈱エコー)・安藤 亘・間辺本文((社) 水産土木建設技術センター)・三上信雄・小森健史(水産庁漁港漁場整備部整備課)
1H-02	13:15	沖縄県東海岸辺野古における海草藻場調査(ジャングサウオッチ) 10年間の結果報告	○安部真理子(日本自然保護協会)・大野正人(日本自然保護協会)・鹿谷麻夕・鹿谷法一(しかたに自然案内)・吉田正人(日本自然保護協会)
1H-03	13:30	沖縄県本部町海域における造礁サンゴモニタリング	○山本広美(美ら島研究センター)・山川英治・長田智史・小澤宏之(沖環科)・岡田 賢(南コーラルクエスト)
1H-04	13:45	地球温暖化に伴う水温上昇がサンゴ分布に及ぼす影響~温室効果ガスの排出シナリオの違いから~	○星良由美子・山野博哉(国環研)・藤井賢彦・山中康裕(北大・地環研)
休憩 Break			
座長 (Chair): Frederic Sinniger			
1H-05	14:15	海洋生物データベースとサンゴ礁研究	○古島靖夫(海洋研究開発機構)・田中克彦(国際海洋環境情報センター)・丸山 正(海洋研究開発機構/国際海洋環境情報センター)・鈴木明功・澤野健三郎(国際海洋環境情報センター)
1H-06	14:30	西表島サンゴ群集の生物間相互作用と攪乱による時空間動態プロセスの推定	○熊谷直喜(琉大熱生研)・向草世香(JST さきがけ/長大水産/琉大熱生研)・酒井一彦(琉大熱生研)
1H-07	14:45	フィリピン沿岸域に生息するコブヒトデ <i>Protoreaster nodosus</i> の遺伝的分化	○中島祐一(東大・ア生セ)・安田仁奈(宮崎大・農)・松木 悠(東大・ア生セ)・DM Arriagado(東工大院・情報理工)・練 春蘭(東大・ア生セ)・MD Fortes(フィリピン大)・WH Uy(ミンダナオ州立大)・WL Campos(フィリピン大)・仲岡雅裕(北大・フィールド科セ)・灘岡和夫(東工大院・情報理工)
1H-08	15:00	ゲノム情報と次世代シーケンサーを用いた <i>Acropora</i> のマイクロサテライトマーカーの開発	○新里宙也・安岡由貴(OIST)・中島祐一(東大・ア生セ)・佐藤矩行(OIST)
1H-09	15:15	東南アジア西太平洋におけるアオサンゴの集団遺伝構造	○安田仁奈(宮大・農)・Coralie Taquet(CNRS)・長井 敏(水セ・中央)・Miguel Fortes(フィリピン大学)・Tung-Yung Fan(海洋生物博物館)・Niphon Phongsuwan(ブーケット海洋生物センター)・波利井 佐紀(琉大・理工)・灘岡和夫(東工大・情報理工)
休憩 Break			
座長 (Chair): 古島靖夫			
1H-10	15:45	Upper mesophotic coral community in Okinawa and perspectives towards shallow reef recovery.	○F Sinniger(JAMSTEC)・Saki Harii(Univ. Ryukyus)
1H-11	16:00	宮古島北東沖に見つかった沈水サンゴ礁	○荒井晃作(産総研・地質)・松田博貴(熊大)・町山栄章(海洋研究開発機構)・佐々木圭一(金沢学院大)・山口 毅(日本海洋)・井龍康文(東北大)・井上卓彦(産総研・地質)
1H-12	16:15	久米島ナンハナリにおける中深度サンゴ群集の台風被害からの回復過程	○藤田喜久(琉大・大教セ/海研)・木村 匡(自然環境研究センター)・塩入淳生(カラーコード)・成瀬 貫(琉球熱生圏・西表研究施設)・仲与志勇(久米島漁業協同組合)・田端 敦・田端裕二(久米島漁業協同組合)・伊関亜里砂(BLUE DOME 久米島)・坂口 梓(沖縄県海洋深層水研究所)・井上福太郎(久米島馬場)
1H-13	16:30	Mesophotic <i>Montipora</i> from Kikai-jima	○M Humblet(Nagoya Univ.)・H Matsuda(Kumamoto Univ.)・K Sasaki(Kanazawa Gakuin Univ.)・H Machiyama・Y Iryu(Tohoku Univ.)
休憩 Break			
座長 (Chair): 山本広美			
1H-14	17:00	タヒチ島の後氷期サンゴ礁堆積物から発見された無節サンゴモの新種	○井龍康文(東北大・理)・Davide Bassi(Univ. Ferrara)・William Woelkerling(LaTrobe Univ.)
1H-15	17:15	西インド洋ケニヤサンゴ記録のIODと pre-El Nino シグナル	○中村修子・茅根 創(東京大・地惑)・Swadhin Behera・山形俊男(JAMSTEC・東京大)
1H-16	17:30	白亜紀ストロマトライトの形態	○中森 亨(東北大・理)・山梨純平(東北大・理)
1H-17	17:45	サンゴ州島の形成・維持過程のメカニズム	○岩塚雄大・片山裕之・関本恒浩(五洋建設)・鈴木拓也・茅根 創(東大・理)・磯部雅彦(東大・新領域)
1H-18	18:00	環礁洲島の地形と津波災害	○菅 浩伸(岡山大・教育)・中島洋典(有明高専・一般教育)・Mohamed Ali(SAARC Maldives)・Mahmood Riyaz(AIT Thailand)

自由集会 11月22日(木) 18:30-20:30

理学部1号館8F839室 Room#839 Science Bldg #1

18:30-	Mesophotic reef studies in Japan	Organizer: Frederic Sinniger(JAMSTEC)・Saki Harii(University of the Ryukyus)・James Reimer(University of the Ryukyus)・Marc Humblet(Nagoya University)
--------	----------------------------------	---

理学部1号館7F710室 Room#710 Science Bldg #1

18:30-	国内のサンゴ群集モニタリング: サンゴ礁保全への意志決定支援ツールとしての活用	オーガナイザー: 中野義勝・井口 亮(琉球大)
--------	---	-------------------------

口頭発表 11月23日(金) 9:30-16:00 Oral Presentation 23 November (Fri)

工学部2号館213講堂 Room#213 Engineering Bldg #2

講演番号 No.	時間 Hour	発表題目 Title	発表者(所属) Authors (Affiliation)
座長 (Chair) : 中島亮太			
2H-01	9:30	Contribution of coral rubble associated microbial community to the dissolution of calcium carbonate under high pCO ₂	○ MN Islam ・ BE Casareto ・ T Higuchi (Grad Sci Tech ・ Shizuoka Univ) ・ Niraula, MP (Grad Sci Tech ・ Shizuoka Univ/Inst Sci Tech ・ Tribhuvan Univ, Nepal) ・ Y Suzuki (Grad Sci Tech ・ Shizuoka Univ)
2H-02	9:45	Mitochondrial electron transport system activity in symbiotic corals: methods and applications	○ Sylvain Agostini ・ Hiroyuki Fujimura ・ Kazuhiko Fujita (Univ. Ryukyus) ・ Yoshimi Suzuki (Shizuoka Univ) ・ Yoshikatsu Nakano (Univ. Ryukyus)
2H-03	10:00	サンゴの内部素過程を考慮したストレス応答モデルの開発	○中村隆志・灘岡和夫・渡邊 敦(東工大・情報理工)・宮島利宏(東大・大気海洋)・中野義勝(琉球大・熱生研)・鈴木 款・樋口富彦(静岡大・創造科学)
2H-04	10:15	サンゴポリブ成長と骨格形成とのカップリング:プロトンダイナミクス	○市川和彦(北大・院地球環境)・服田昌之(お茶大・理・生物)
2H-05	10:30	Reproduction in the foraminifera, <i>Amphistegina sp.</i> , in Funafuti, Tuvalu.	○ A Sharma (Univ. Sth Pac)
休憩 Break			
座長 (Chair) : Sylvain Agostini			
2H-06	11:00	サンゴ礁域における海面マイクロ層の微生物群集	○中嶋亮太(JAMSTEC)・土屋健司・中富伸幸・今野文枝・戸田龍樹(創価大)・多田雄哉・浜崎恒二(AORI)・BHR Othman(UKM)・AWM Effendy(UMT)
2H-07	11:15	Dynamics of Bio-optical Factors in Malaysian Coral-reef Waters	○ Keiko Mizubayashi ・ Victor S. Kuwahara (Soka Univ) ・ Thirukanthan Chandra Segaran ・ Zaleha Kassim ・ A. M. W. Effendy (Universiti Malaysia Terengganu) ・ M. R. M. Kushairi (Universiti Selangor) ・ Tatsuki Toda (Soka Univ)
2H-08	11:30	Re-evaluation of nutrients cycle in coral reef	○ Yoshimi Suzuki ・ Beatriz E. Casareto ・ Agostin Sylvain (Univ. Ryukyus) ・ Hiroyuki Fujimura (Univ. Ryukyus) ・ Tomihiko Higuchi (Shizuoka Univ) ・ Yoshikatsu Nakano (Univ. Ryukyus)
2H-09	11:45	沖縄石サンゴの抗菌活性物質に関して	○佐藤神奈(静岡大・農)・カサレトベアトリス・鈴木 款・小谷真也(静岡大・創造)
2H-10	12:00	蛍光式酸素センサープローブを用いたミドリイシサンゴの Rapid tissue necrosis のモニタリング	○和田 実(長崎大・水環)・Gregory N Nishihara(長崎大・ECSE)・磯村尚子(沖縄高専)
昼休み Lunch Break			
座長 (Chair) : 山下洋			
2H-11	13:30	Rapid tissue necrosis(RTN)を発症したミドリイシサンゴの細菌群集構造解析	○入江美和・和田 実(長崎大・水環)・磯村尚子(沖縄高専)
2H-12	13:45	アザミサンゴの精子、幼生、成群体のテロメア長について	葛 宏興・○日高道雄(琉球大・理)
2H-13	14:00	キクメイシ科およびオオトゲサンゴ科の分類体系の大幅変更	○深見裕伸(宮崎大・農・海洋)
2H-14	14:15	ミドリイシ属サンゴの交雑について:受精率と初期生残率	○磯村尚子(沖縄高専・生物資源)・岩尾研二(阿嘉島臨海)・深見裕伸(宮崎大・農・環境生物)
休憩 Break			
座長 (Chair) : 磯村尚子			
2H-15	14:45	大浦湾のアオサンゴ群体上の珪藻について	○山城秀之・渡邊謙太(沖高専)・西原千尋(ダイビングチームすなっくスナフキン)・鈴木秀和・三瓶ゆりか(海洋大)・安部真理子(日本自然保護協会)
2H-16	15:00	サンゴと褐虫藻の初期共生系 パートナーを選ぶのはサンゴか?褐虫藻か?	○山下 洋・鈴木 豪・甲斐清香・林原 毅(水研セ西水研亜熱帯)・小池一彦(広大院生物圏)
2H-17	15:15	次世代シーケンサーを用いた造礁サンゴに共生する褐虫藻の網羅的解析の試み	○久保田賢(高知大黒潮圏)・目崎拓真(黒潮研)
2H-18	15:30	糖を含むカロチノイド P457 の分子構造、褐虫藻及びサンゴにおける分布と予想される生理機能	若浜貴宏・○奥山英登志・吉田磨仁・(北大・地球環)・竹ノ内明・小亀一弘(北大・理)・中村明毅・高嶺翔太(沖電開発)・粟井光一郎(静岡大)・河地正伸(国立環境研)・高市真一(日本医大・生物)
2H-19	15:45	石西礁湖北礁での4歳までのミドリイシの生残・成長	○岡本峰雄(海洋大院・海洋科学系)・野島哲(九大院・天草)

ポスターセッション 11月23日(金) 16:15-18:15 Poster Session 23 November (Fri) 奇数番号 Odd numbers

理学部1号館 Science Bldg #1 小柴ホールホワイトエ, 会議室, 3F講義室

16:30-17:00	スピードトーク (PS- 奇数) 小柴ホール Speed talk (PS-odd#) Koshiba Hall	
-------------	---	--

自由集会 11月23日(金) 18:30-20:30

理学部1号館3F839室 Room#839 Science Bldg #1

18:30-	サンゴ蛍光の現場撮影技術をサンゴ礁研究に生かすには…?	オーガナイザー:古島靖夫・丸山 正(海洋研究開発機構)・篠野雅彦(海上安全技術研究所)
--------	-----------------------------	---

理学部1号館7F710室 Room#710 Science Bldg #1

18:30-	～若手の異分野連携を考える～日本サンゴ礁学会若手会	オーガナイザー:井上志保里(東京大学)・高橋麻美(琉球大学)
--------	---------------------------	--------------------------------

理学部1号館小柴ホール Science Bldg #1 Koshiba Hall

18:30-	サンゴ礁生態系の状態とサンゴ礁生態系保全行動計画に関する意見交換会	オーガナイザー(主催) 環境省自然環境局自然環境計画課/自然環境研究センター、(共催) サンゴ礁保全委員会
--------	-----------------------------------	---

口頭発表 11月24日(土) 9:30-12:15 Oral Presentation 24 November (Sat)

工学部2号館213講堂 Room#213 Engineering Bldg #2

講演番号 No.	時間 Hour	発表題目 Title	発表者(所属) Authors (Affiliation)
座長 (Chair): 鈴木豪			
3H-01	9:30	サンゴ礁保全活動を現場からインベーションする	○猪澤 也寸志 (エコガイドカフェ)
3H-02	9:45	教育普及啓発活動が地域住民の生物多様性保全の認知と態度および行動に及ぼす影響 ～久米島応援プロジェクトの事例から～	○浪崎直子・山野博哉 (国環研)・上村真仁・権田雅之 (WWFジャパン)・深山直子 (東京経済大・コミュニケーション)・藤田喜久 (琉大・大教セ/海の自然史研究所)・関谷直也 (東洋大・社会)
3H-03	10:00	新聞記事にみるサンゴ礁保全に関する社会的認知度の変化	○中井達郎 (国士館大・立教大)・有川美紀子 (フリーライター)
3H-04	10:15	企業が「サンゴ礁」保全に取り組む上での困難と利点	○関谷直也 (東洋大学社会学部)・浪崎直子 (国立環境研究所)
3H-05	10:30	伝統的左官業者によるサンゴの利用ー沖縄・石垣島の事例からー	○深山直子 (東京経済大学・コミュニケーション学部)
休憩 Break			
座長 (Chair): 浪崎直子			
3H-06	11:00	格子状基盤を使用したサンゴ増殖技術の開発 ー3. 異なる光条件下における生残比較および褐虫藻添加の影響についてー	○鈴木 豪・山下 洋・甲斐清香・林原 毅 (西水研)・鈴木 清・家久侑大 (ダイクレ)・岡田 亘 (エコ)・安藤 亘 (水産土木セ)・三上信雄 (水産庁)
3H-07	11:15	港湾奥部におけるサンゴ移植の取り組み	與那嶺和史・林 佳克 (沖縄総合事務局那覇港湾・空港整備事務所)・○岩村俊平 ((株) エコー・沿岸環境部)
3H-08	11:30	那覇港内におけるサンゴ再生 (1) ー港内物理環境とサンゴ被度の関係ー	○新保裕美・山木克則・田中昌宏 (鹿島建設)
3H-09	11:45	那覇港内におけるサンゴ再生 (2) ー網状人工基盤の設置によるサンゴ着生効果ー	○山木克則・新保裕美・田中昌宏 (鹿島建設)・田崎邦男・乾 邦博 (日本海上工事)
3H-10	12:00	電着技術を利用したサンゴ増殖に関する電場について	○木原一禎・細川恭史 (三菱重工鉄構エンジニアリング (株))・鯉淵幸生 (東京大 大学院)・谷口洋基 (阿嘉島臨海研究所)・近藤康文 (㈱シーブイファーム)・山本 悟 (日本防蝕工業 (株))
昼休み Lunch Break			

ポスターセッション 11月24日(土) 13:30-15:30 Poster Session 23 November (Fri) 偶数番号 even numbers

理学部1号館 Science Bldg #1 小柴ホールホワイトエ、会議室、3F講義室

13:45-14:15	スピードトーク (PS- 偶数, NS- 保全活動) 小柴ホール Speed talk (PS-even#, Conservation activities) Koshiba Hall
-------------	---

総会・学会賞受賞講演 11月24日(土) 15:45-18:15

理学部1号館小柴ホール Science Bldg #1

11月25日(日) シンポジウム

工学部2号館213講堂 Room#213 Engineering Bldg #2

S1	10:00-12:30	シンポジウム「サンゴ礁学の成果と展望」 Symposium "Coral Reef Science -achievement and perspective"
S2	14:00-16:30	公開シンポジウム「変化する環境と生態系」 Public Symposium "Changing Environment and Ecosystem"

11月25日(日) レクチャー

理学部1号館3F講義室

17:00-19:00	レクチャー「サンゴ群集のモニタリング法」 Lecture "Monitoring of coral populations"
-------------	---

》ポスター発表 Poster Presentation

ポスター番号が奇数の発表は 11 月 23 日 (金) 16:15-18:15 で、スピードトークは 16:30-17:00 です。偶数の発表は 11 月 24 日 (土) 13:30-15:30 で、スピードトークは 13:45-14:15 です。

すべてのポスターは、11 月 22 日 (木) 16 時から 11 月 24 日 (土) 15:30 まで掲示できます。11 月 24 日 (土) 15:45 からの総会までに撤去して下さい。

ポスター番号中の記号で、PS はスピードトークを行う発表で、* は若手優秀発表賞にエントリーされた発表です。

スピードトークは 2 分以内、スライド 2 枚以内で、ポスターへの勧誘を目的とします。詳細な結果や議論はポスターをお願いします。

ポスター番号	タイトル	発表者
PS-1*	サンゴによる褐虫藻の消化と放出-非ストレス下と温度ストレス下での比較-	○藤瀬里紗 (広島大院・生物圏)・山下 洋・鈴木 豪 (西水研亜熱帯)・小池一彦 (広島大院・生物圏)
PS-2*	微小なスナギンチャクが示す特異な進化系統	○藤井琢磨 (琉球大・理工)・James Davis Reimer (琉球大・超域)
PS-3*	ウミウシ-褐虫藻共生系の系統地理: 宿主の遺伝的な違いは共生褐虫藻相に影響するの?	○依藤 実樹子 (琉球大・瀬底、東大・大海研)・武島弘彦・馬淵浩司・渡邊俊樹・西田 睦 (東大・大海研)
PS-4*	山口県周防大島町で採集したニホンアワサンゴに共生する褐虫藻の温度ストレス耐性	○新宅航平 (広島大院・生物圏)・藤本正明 (NPO 法人 NFN)・末友靖隆 (マイクロ生物館)・濱津芳弥 (なぎさ水族館)・山下 洋 (西海区水研石垣)・小池一彦 (広島大院・生物圏)
PS-5*	高知県大月町の造礁サンゴの形態と生産	○会田美佳・中森 亨 (東北大・理)・目崎拓真 (黒潮生物研究所)
PS-6	Effects of 5 bacteria species on the health of corals and their zooxanthellae	○ BE Casareto・A. Irikawa・T Suzuki・K Yoshinaga・N Islam (Shizuoka Univ.)・A Iwase (IDEA Cons. Inc.)・Y Suzuki (Shizuoka Univ.)
PS-7*	Stress response and recovery in <i>Pocillopora damicornis</i> under high nitrate level and elevated temperature	○ PK Chumun・B.E Casareto・A Irikawa・T Higuchi (Shizuoka Univ.)・R Bhagooli (University of Mauritius)・Y Ishikawa (Institute for Environmental Sciences)・Y Suzuki (Shizuoka Univ.)
PS-8*	褐虫藻から見つかった未知のクロロフィル系色素 P684	○鈴木利幸・B. E. Casareto・鈴木 款・塩井祐三 (静岡大・創造科学)
PS-9	サンゴの微量金属元素と高水温下の酵素活性	○藤村弘行・佐々木 岳・林 洋之・S. Agostini・中野義勝 (琉球大)・樋口富彦・B. E. Casareto・鈴木 款 (静岡大)
PS-10*	イソバナ科 <i>Melithaea</i> 属 (八放サンゴ亜綱ウミトサカ目) の種判別有用な分類形質の検討	○式場はるか (琉球大・理工)・野中正法 (沖縄美ら海水族館)・James Davis Reimer (琉球大・超域)
PS-11*	The seasonal dynamic of <i>Palythoa tuberculosa</i> in Okinawa	○ S-Y Yang (琉球大・理工)・CD Ashworth (琉球大・理工)・J.D.Reimer (琉球大・超域)
PS-12	Investigation into potential hybridization events in <i>Zoanthus sansibaricus</i>	○ D Albinsky (Univ. Ryukyus)・FC Wham (Pennsylvania State Univ.)・N Shinzato・JD. Reimer (Univ. Ryukyus)
P-13	カワギンチャク <i>Isaurus tuberculatus</i> の沖縄島における分布状況および、高知の個体群との繁殖生態の比較	○河村伊織 (琉球大・理工)・James Davis Reimer (琉球大・超域)
PS-14	中層光層におけるサンゴ-褐虫藻共生系の多様性	○波利井 佐紀・依藤実樹子 (琉球大・熱生研)・Frederic Sinniger (JAMSTEC)
PS-15*	海洋酸性化が造礁サンゴに与える影響の種間・群集間比較	○高橋麻美 (琉球大・理工)・栗原晴子 (琉球大・超域)
PS-16*	炭素安定同位体分析を用いたサンゴ礁生態系における動物プランクトン群集の食物網解析	○中富伸幸・園田和彦・山崎春華 (創価大・工)・中嶋亮太 (JAMSTEC)・栗原晴子 (琉球大・超域)・戸田龍樹・山本修一 (創価大・工)
PS-17*	アザミサンゴ <i>Galaxea fascicularis</i> 色彩型の蛍光タンパク質とストレス耐性について	○仲榮真穂 (琉球大 理工院)・日高道雄 (琉球大 理)
P-18	褐虫藻の VLK- プロテアーゼの精製と性質決定	○鈴木雄也 (静岡大・理)・塩井祐三 (静岡大・創造院)
P-19	光源スペクトルがヒレジャコと体内褐虫藻に及ぼす影響	○井上 頤 (沖縄水海研セ)・山下 洋 (水研セ西水研亜熱帯)
P-20	<i>Symbionidium</i> Y106 株のペリジニン-クロロフィル-タンパク質複合体の単離・精製と性質	○北原茉依 (静岡大・理・生)・栗井光一郎 (静岡大・GRL)・塩井祐三 (静岡大・創造院)
P-21	ウスエダミドリイシ初期ポリプからの出芽パターン	○高橋志帆・服田昌之 (お茶大・理・生物)
P-22	ミドリイシ初期ポリプの骨格からの脱出	高橋志帆・服田昌之 (お茶大・理・生物)
P-23	ゲノム情報を利用したミドリイシ属サンゴの生殖関連遺伝子の探索	○澤田悠詩・竹内悠記・山内千裕 (琉球大・理工)・磯村尚子 (沖縄高専)・山本広美 (海洋博研究センター)・竹村明洋 (琉球大・理工)
P-24	サンゴの PO 活性測定によるストレス応答について	○波照間さやか (沖縄高専専攻科)・山城秀之 (沖縄高専)
P-25	シアノバクテリア (<i>Lyngbya polychroa</i>) の維持機構の解明	○富山未樹 (沖縄高専専攻科)・山城秀之 (沖縄高専)
P-26	緯度勾配下における稚サンゴの獲得褐虫藻タイプの比較	○木島大雅 (琉球大・理工)・依藤実樹子 (琉球大・熱生研)・Frederic Sinniger (JAMSTEC)・新垣誠司 (九大・理学部)・目崎拓真 (黒潮研)・波利井 佐紀 (琉球大・熱生研)
P-27	Coral recruitment patterns at 5m and 15m in Lyudao (Green Is.), Taiwan	○ Yoko Nozawa・Chehung Lin・Aichi Chung (Academia Sinica)
P-28	熱ストレスにより発現が変化するタンパク質の同定	○神保 充・荒永 康介 (北里大海洋生命)
P-29	天皇海山における冷水性サンゴ類の分布調査 (2010, 2011 年の結果概要)	○林原 毅・宮本麻衣 (水研セ国際水研)・今原幸光 (黒潮生物研)・濱野 明・中村武史 (水大校)・立川浩之 (千葉県博)
P-30	Survivorship of symbiotic and non-symbiotic coral larvae under thermal stress	○ Dwi Haryanti (Univ. Ryukyus)・Michio Hidaka (Univ. Ryukyus)
P-31	高温処理により黄緑色化したユビエダハマサンゴの黒帯病的症状とシアノバクテリア	○吉田磨仁・竹ノ内明・若浜貴宏・奥山英登志 (北大・地球環)・小亀一弘 (北大・理)・中村明毅・高嶺翔太 (沖縄開発)・栗井 光一郎 (静岡大)・河地正伸 (国立環境研)・高市真一 (日本医大・生物)
P-32	造礁サンゴにおける水流環境影響	○中村 崇・山崎秀雄 (琉球大・理)・野島 哲 (九州大・理)・Robert VanWoesik (フロリダ工科大)
P-33*	精子凍結技術を用いた <i>Acropora digitifera</i> と <i>Acropora sp.1</i> の交雑	○大木駿 (琉球大・瀬底実験所)・守田昌哉 (琉球大・理工)・Kowalski Radoslaw
P-34*	共生モデル生物としての <i>Acropora digitifera</i> の有用性の検討	○國谷奈美・神保 充 (北里大・海洋)
P-35	キャンセル	
PS-36*	Primary production and nutrient dynamics in seagrass and coral co-existence	○ A Meekaew・BE Casareto・T Higuchi・Y Suzuki (Shizuoka Univ)
PS-37*	高水温・強光と硝酸塩による複合ストレスと活性酸素生成	○樋口富彦・BE Casareto (静岡大)・中村隆志 (東工大)・PK Chumun・湯山育子 (静岡大)・石川義朗 (環境科学技術研究所)・藤村弘行 (琉球大)・鈴木 款 (静岡大)

PS-38*	サンゴ骨格中のフッ素含量と石灰化母液の炭酸イオン濃度の関係	○田中健太郎(琉球大・理)・浅海竜司(琉球大・超越)・高橋麻美(琉球大・理工)・栗原晴子(琉球大・超越)・新城竜一(琉球大・理)
P-39	褐虫藻中微量元素の多元素定量	○伊藤彰英・桑江聖・山内啓伍・伊豆見祐(琉球大・教育)
PS-40*	化石サンゴに基づく過去の台風イベントの復元: 6000年前から巨大化してきた台風	○本郷宙軌(琉球大・理)
PS-41*	将来の地球温暖化を考慮した海洋保全計画	○牧野 梓(Univ. Queensland)・山野博哉(国立環境研究所)・Maria Beger・Carissa Klein(Univ. Queensland)・屋良 由美子(国立環境研究所)・Hugh Possingham(Univ. Queensland)
PS-42*	Modeling marine connectivity of coral reefs in Sekisei Lagoon and selected sites in the Philippines	○L Bernardo・K Nadaoka(Tokyo Inst. Tech)・L Lu(JAMSTEC)・C Villanoy(Univ. of the Philippines)
PS-43*	硫黄島島のpCO ₂ 変動	○井上 志保里・茅根 創・山本将史(東大・地惑)
PS-44*	石垣島・吹通川河口沿岸部におけるサンゴ礁海域への地下水流入特性	○森 尚大(東工大・土木)・灘岡和夫(東工大・情報理工)・Ariel Blanco(Univ. Philippines)・渡邊 敦・中村隆志・山本高大・阿部友里子(東工大・情報理工)
PS-45*	サンゴ礁生態系への畜産起源栄養塩負荷発生構造の把握	○竹内友哉・灘岡和夫(東工大・情報理工)
PS-46	マジュロ・フナフチ環礁における州島堆積物の粒度組成の特徴	○伊藤理彩・茅根 創(東大・理)・山口 徹(慶應大・文)
P-47	Nursery groundを探せ!ー微小地形に対応したホシズナの分布様式ー	○細野隆史(東大・理)・Paeniu Lopati(ツバル国水産局)・桑原祐史(茨大・工)・井手陽一(海洋プランニング)・茅根 創(東大・理)
P-48	サンゴ礁の移動特性について	○安藤 亘((社)水産土木建設技術センター)・中山哲殿((独)水産工学研究所)・滑川 順(国際気象海洋(株))
P-49	ツバル・フォンガファール島サンゴ礁における有孔虫 <i>Baculogypsina sphaerulata</i> の生活史と生産量	○藤田和彦・乙丸真希(琉球大・理)・Paeniu Lopati(ツバル水産局)・細野隆史(東大・理)・井手陽一(海洋プランニング)・茅根 創(東大・理)
P-50	多時期の衛星画像を用いたサンゴの白化抽出の検討	○有安恵美子・角田里美(アジア航測)・浅田典親(J-Space Systems)・松永恒雄(国環研)
P-51	サンゴ礁州島形成における外力条件の評価	○鈴木拓也・茅根 創・石川元久(東大・理)・岩塚雄大(五洋建設)・磯部雅彦(東大・新領域)
P-52	フィリピン国の沿岸生態系における地域的環境負荷と炭酸系動態	○渡邊 敦(東工大・情報理工)・宮島利宏(東大・大気海洋研)・灘岡和夫(東工大・情報理工)・梅澤 有(長崎大・水産環境)・森本直子(東大・大気海洋研)・山本高大・土屋 匠・中村隆志(東工大・情報理工)・Rhia Gonzales・Genevieve L. Regino・Charissa M. Ferrera・Maria L. San Diego-McGlone(フィリピン大 MSI)
PS-53*	銀ナノコロイドがニホンミドリイシの初期生活史に及ぼす影響	○諏訪僚太(京大・フィールド研)・柏田祥策(東洋大・生命科学)
PS-54	UAVを使ったサンゴ礁地域の高解像度空中写真の撮影と活用	○長谷川均(国士館大・地理)・渡部靖之(株)情報科学テクノシステム)・吉田貴樹(BIZWORKS(株))
PS-55	Coral reef resources utilization to support independent economic development and sustainable in Indonesia: identification the potential and condition of coral reef and reef fish	○KA Roeroe・LTX Lalamentik(Sam Ratulangi Univ.)・M Okamoto(Tokyo Univ. of Mar. Scie & Tech)・AB Rondonuwu・NPL Pangemanan(Sam Ratulangi Univ.)・F Runtukahu(Fisheries Agency・North Sulawesi Prov)
P-56	リーフチェックの結果からみるサンゴの被害状況について	○土川 仁・宮本育昌・菅原正臣(コーラル・ネットワーク)・福井敬一(リーフチェック串本チーム)
P-57	沖縄県伊江島におけるサンゴ増殖技術開発に向けた取り組み	○石田和歌・松田健也・片山 悦治郎(国際航業株)・安藤 亘・石岡 昇・中村良太((社)水産土木建設技術センター)・三上信雄・小森健史(水産庁漁港漁場整備部整備課)
P-58	沖縄県全域を対象とした、サンゴ群集調査結果の紹介	小笠原敬・長田智史・小澤宏之・長井 隆・山川英治(沖環科)・岡地 賢(CQ)・木 匡(自然研)・富永千尋(沖縄県)
P-59	分布北限域におけるエダミドリイシ群落へのガンガゼによる食害の影響	○島田 剛(東海大・院)・瀬戸 まどか・横地洋之(東海大・海洋)
P-60	濁りとシルテーションの影響のある海域におけるサンゴ増殖技術の開発	○岡田 亘・高橋由浩(株エコー)・安藤 亘・石岡 昇・中村良太((社)水産土木建設技術センター)・三上信雄・小森健史(水産庁漁港漁場整備部整備課)
P-61	サンゴのフェノロジーー冬季に観察された白化現象の緯度的偏向と季節変動	○中野義勝(琉球大・熱生研)
P-62	和歌山県串本におけるサンゴ群生の観光資源としての利用と経済活性化への課題	○齊藤久美子(和歌山大・経済)
P-63	四国西南海域にける造礁サンゴの分布と幼生加入 2004-2012	○斎藤宇奈・喜多村 鷹也・倉田友香・大毛淳矢・竹内友規(東海大海洋) 岩瀬文人(黒潮生物研究所)・横地洋之(東海大海洋)
P-64	石西礁湖におけるオニヒトデ産卵期のクロロフィル a 濃度分布	○福岡弘紀・山下 洋・亀田卓彦・鈴木 豪(水研セ西水研重熱帯)
P-65	高知県香南市夜須町手結周辺における造礁サンゴ群集の拡大について	○目崎拓真・田中幸紀(黒潮研)・久保田賢(高知大・黒潮圏)
P-66	フィリピンネグロス島沿岸におけるサンゴ礁のモニタリング調査と海洋保護区の有効性について	○瀬尾友樹・ジン・タナンゴナン(近畿大・農)
P-67	稚サンゴの水槽内適正飼育環境	○中村良太・安藤 亘・石岡 昇・間辺本文(水産土木建設技術センター)・三上信雄(水産庁漁港漁場整備部)
P-68	サンゴ電着棚の5年間における成長	○山本 悟(日本防蝕工業)・木原一禎・細川恭史(三菱重工鉄鋼エンジニアリング)・近藤康文(シービーファーム)・鯉淵幸生(東京大学院・新領域創成)・谷口洋基(阿嘉島臨界研究所)
P-69	リュウモンサンゴ属の一種 <i>Pachyseris foliosa</i> の沖縄島における生息の確認	○大原 拓(有限会社ベントス)・藤井琢磨・河村伊織・式場はるか・水山 克・Javier Montenegro(琉球大・理工)・Kristine White(UMUC)・成瀬 貴(琉球大・TBRC)・James Davis Reimer(琉球大・超越)
P-70	船舶搭載ライダー観測による広域サンゴモニタリング法の開発	○篠野雅彦・田村兼吾・桐谷伸夫・今里元信・松本 陽(海技研)・山野博哉・小熊宏之(国環研)
P-71	沖縄県多良間島礁池で見られる高被度エダコモサンゴ群集とその海草群集との混在の様子	○棚谷灯子・茅根 創(東大・理)
P-72	沖縄沿岸海域における日焼け止め成分による海水とサンゴ食物の汚染状況	○田代 豊(名桜大国際)・亀田 豊(千葉工大・工)
P-73	A Conceptual Framework for Coral Reef Rehabilitation in Thailand	○T Yeemin・S Pengsakun・W Klinthong・W Samsuvan・M Sutthacheep(Ramkhamhaeng Univ.)
P-74	An Assessment of Coral Reef Resilience in the Gulf of Thailand following the 2010 Bleaching Event	○M Sutthacheep・M Yucharoen・K Sangmanee・T Yeemin(Ramkhamhaeng Univ.)
P-75	Impacts of Global Warming on Coral Reef Ecosystems Case Study of Okinawa Island of Japan	○Faezeh Mahichi(Ritsumeikan Asia Pacific Univ.)・Ken Arii

» 保全活動ポスターコーナー

保全活動ポスターコーナーの活動紹介コアタイムは11月24日(土)13:30～15:30です。

ポスター番号中の記号でNSはスピードトークを行う発表で、同日ポスター発表のスピードトーク後となります。

すべてのポスターは、11月22日(木)16時から11月24日(土)15:30まで掲示できます。11月24日(土)15:45からの総会までに撤去して下さい。

ポスター番号	タイトル	発表者
NS-01	市民監視活動によるサンゴ礁保全(宮古島海中公園公害紛争処理報告)	猪澤也寸志(エコガイドカフェ)
N-02	サンゴを人工物の絡みつきから守る取り組みー沖縄の海から伝えたいことー	有光智彦(海の生命写真家)
N-03	石垣島周辺海域の水平透明度の調査	○内藤 明(エコツアーりんばな), 佐川鉄平(海遊), 秋田雄一(沖縄県水産海洋研究センター石垣支所), 下地理仁(石垣市環境課), 平野 淳・春口洋貴(環境省国際サンゴ礁研究・モニタリングセンター), 野口定松(ダイブサイトノロ), 灘岡和夫(東工大院・情報理工)
N-04	久米島応援プロジェクト:研究者・環境NGOらによる赤土の海域への影響調査と対策活動を実践する地域モデルづくりの試み	○権田雅之・安村茂樹・上村真仁(WWFジャパン), 山野博哉・林 誠二・浪崎直子・石原光則(国環研), 藤田喜久(琉大・大教セ/海の自然史研), 木村 匡(自然環境研究セ), 金城孝一(沖縄県衛環研), 仲宗根一哉(沖縄県環境保全課), 長田智史(沖環科), 深山直子(東京経済大), 古瀬浩史(自然教育研究セ), 星野奈美(ホシノナミ), 三神良之(NIJI)
N-05	石西礁湖サンゴ礁基金 陸域対策	千川 明(石西礁湖自然再生協議会サンゴ礁基金)
N-06	レジャーダイバーも参加、恩納村海域でのサンゴ再生活動	チーム美らサンゴ
N-07	～海を愛するダイバーとして～ PADI 日本のサンゴ礁保護に向けての取り組み	PADI ジャパン
N-08	リーフチェックの推進とサンゴ礁を知ってもらい取り組みについて	コーラルネットワーク
NS-09	パラオの海洋保護区保全・管理におけるパラオ国際サンゴ礁センター(PICRC)の取り組み	佐藤崇範(パラオ国際サンゴ礁センター)
N-10	三重県内におけるサンゴの分布および北上調査	三重大学スキューバダイビングサークル